

# 平成23年度 学力向上アクションプラン

唐津市立切木中学校

## 1 生徒の学力と学習の状況

### (1) 学力の状況

今年度実施した佐賀県小・中学校学習状況調査等の結果から見ると、第3学年においては、おおむね良好な状況にある。しかし、第1・第2学年においては、ほぼすべての教科において県平均を大きく下回っており、学力向上に向けた教育活動の改善・充実が喫緊の課題である。

### (2) 学習の状況

本校は、素朴さと落ち着きのある穏やかな生徒が多い。素直で、授業や学校行事等には協力と協働の態度で取り組む。反面、1小学校から1学級の進学で、切磋琢磨することが少なく、競争心をもって学習に取り組む姿勢に乏しく、自己肯定感や自尊感情も低く、自信や意欲を持って学習に取り組む態度に課題がある。

## 2 客観的事実に基づく現状・課題の評価・検証

児童生徒の学力の定着・向上には、学力調査等の結果を参考にしながら、本校の教育活動の成果と課題を客観的に検証し、事実を根拠としたより具体的な改善・充実に取り組む。

### (1) 佐賀県小・中学校学習状況調査（教育センターの支援による）

- ① 日時 平成23年8月3日（水）
- ② 講師 佐賀県教育センター研究課研究調査担当 係長 副島和久
- ③ 内容 本校生徒の現状と課題及び新学習指導要領に沿った課題克服の考え方と指導のあり方、指導法改善のアイディアについて〈演習〉

### (2) Q-Uテスト（教育センターの支援による）

- ① 日時 平成23年8月23日（火）
- ② 講師 佐賀県教育センター研究課生徒指導担当 研究員 福山美佳
- ③ 内容 Q-Uテストにみる本校生徒の現状と課題及び課題克服に向けた取組み

### (3) 課題の認識

- ・ 意識調査と学力の関連性から学習に対する意欲や家庭学習のあり方、基礎学力の定着度
- ・ 教科や学年により多少の相違はあるが、例えば、国語科においては「話す、聞く」、社会科や理科においては「知識・理解」や「思考・判断」、数学科における「知識・理解」や「見方や考え方」、英語科における「表現」に課題がある。そうした課題を認識、共有化し、各教科において、学力向上に役立つ具体策を打ち出し実践することとした。

## 3 学力向上に向けた研究内容と取り組み

- (1) 生徒の学力向上を図るために、キャリア教育を生かし、自己の将来に対する進路意識を高め、学習への動機付けを強化する。
- (2) 学習課題を明らかにし、基礎的・基本的な内容の定着を目指した個別指導や集団に応じた学習指導のあり方を改善・充実する。
- (3) 新学習指導要領の移行期における適切な指導と、研究授業による指導力の向上をめざす。  
(教員が各自年間1回、研究授業のねらいを明確にして提起し、研修会において検証)

### ※研究授業のねらい

- ①個に応じたきめ細かい学習指導
  - ②基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る学習指導
  - ③思考力、判断力、表現力の向上を目指す学習指導(活用型授業の展開)
- (4) 始業時間前の朝読書を通して集中力や読解力を育成する。
  - (5) 2学期から毎週木曜日の短学活時に国語（漢字等）、数学（計算等）、英語（英単語等）の小テストの時間（名称：協理（きり）中〔切中〕GOGOタイム）を設定し、クラスマッチ形式で意欲を喚起しながら基礎基本の定着を目指す。
  - (6) 「学習の手引き」の活用を図り、教科の特質に応じた学習方法を習得させるとともに、生徒の家庭学習に浸透させる。また、「家庭学習の手引き」としても使えるよう適宜改訂する。
  - (7) 「学習の手引き」にある本校の「授業のルール」を徹底する。意識を高めそのスキルを身につけるために全教室に「授業のルール」を掲示し、学力の土台となる学習規律を徹底する。
  - (8) 学期ごとの授業開きや必要に応じ「何のために学ぶのか」、情熱を持って伝える。

- (9) 週1回、各学年でクラススピーチを実施し、定例の全校集会でのスピーチにつなげることにより、自己理解や他者理解、表現力やコミュニケーション能力の向上につなげる。
- (10) 個別指導を推進するため、最終学年である第3学年の数学と英語は全時間、学力の底上げが急務な第2学年においては、全教科週1回程度のティームティーチングを実施する。
- (11) 授業で学んだことが家庭学習で反復され、家庭学習が次時の授業につながるような効果的な課題の出し方など、授業と家庭学習の一体化を図る学習を推進するため、自学ノートや副教材の有効活用を図る。国語、社会、数学、理科、英語の5教科においては、毎日家庭で1ページ以上の自学ノートに取り組みさせて点検や助言を行う。
- (12) 意識調査の分析結果から家庭学習時間が相当不足していることから、家庭における「学習時間の確保と質の向上」に取り組む。生徒個人々の意識の高揚を図り、保護者との密なる情報提供と交換のもと、家庭との協力関係を高める。

#### 4 小・中連携による学力向上の推進

##### (1) 学力向上に向けて

- ・ 各校が行う研究授業の際には、担当の職員を派遣する。また、全員が参観する研究授業を小・中学校ともに1回ずつ実施する。
- ・ 夏季休業中に小・中合同研修会を実施し、スクールカウンセラーによる研修や学習状況調査などのテスト結果の分析を行い、家庭学習の習慣化と系統化に向けた取組みを行う。

##### (2) 家庭・地域との連携に向けて

- ・ 毎月5のつく日を「切木デー」として「ノーテレビ・ノーゲームの推進」「家庭学習の充実」「家庭内のコミュニケーション」を呼びかけ、家庭と連携した取組みを推進する。

#### 5 各教科の数値目標と指導の工夫・改善（平成23年8月15日現在）

##### ● 国語科（数値目標：県小・中学校学習状況調査の県平均値を上回る）

- ・ 学習意欲と言葉に対する関心を高めるため、授業始めの全員音読。
- ・ 自分の考えを整理し、発表に生かすための構成メモやスピーチメモ等の指導。
- ・ 他者の考えに関心をもち、自分の考えと比較するための聞き取りチェック表の活用。
- ・ 読書通帳を活用した毎日の朝読書や語彙力を高めるための辞書引き学習の推進。

##### ● 社会科（数値目標：県小・中学校学習状況調査の県平均値を上回る）

- ・ 資料集や白地図を活用し、資料の読解や作業を通じた技能、表現力の強化。
- ・ 思考と価値判断をする小集団による話し合い活動の導入。
- ・ 新聞記事を活用した思考・判断の場面の設定と発表等の表現活動。

##### ● 数学科（数値目標：県小・中学校学習状況調査の県平均値を上回る）

- ・ ティームティーチングによる個別指導の強化。
- ・ 授業の事前打ち合わせと、反省による生徒の把握。
- ・ 学習のまとめに復習プリントを利用。（やや難易度の高い問題も挿入し、個別の学習速度に対応） およびワークの併用と復習を入れながらの学習。（知識・理解）
- ・ 課題解決までの考え方を説明させる場面を多く設定。（見方、考え方・表現力）

##### ● 理科（数値目標：県小・中学校学習状況調査の県平均値を上回る）

- ・ 論理的な思考につながる授業展開の工夫とその展開を明確にしたワークシートの活用。
- ・ 実験、観察の前段階で推論する場の設定。（実験、観察を行う目的の意識づけ）
- ・ 実験、観察後のデータ処理の考察への指導。（科学的な思考力の育成）
- ・ パソコンや電子黒板の効果的な活用。ワークシート、画像、動画などを見やすく提示し、生徒の学習活動を明確化。

##### ● 英語科（数値目標：県小・中学校学習状況調査の県平均値を上回る）

- ・ 基礎的な語彙、文法事項定着のため、計画的・系統的なドリル学習の実施。
- ・ 英語を通しての理解力の向上を図るため、英語に接する機会をできるだけ多く設定。
- ・ 表現力の向上のため、生徒のアウトプット活動の積極的導入。

#### 6 今後の展望

- (1) 諸調査の結果に基づく検証改善サイクルを確立し、随時アクションプランを見直す。コンパクトな本校の特質から改善や新たな取組みに対して、ためらわない。
- (2) 校内研究の充実によりキャリア教育を機能させ、学力向上に役立てる。